

平成28年度事業報告書

自 平成28年4月1日

至 平成29年3月31日

学校法人多摩美術大学

東京都世田谷区上野毛3-15-34

目 次

I. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神 2 頁
2. 沿革 2 頁
3. 設置学校等 3 頁
4. 目的・教育目標 4 頁
5. 入学定員・収容定員・学生数・定員充足率 6 頁
6. 学部学科・専攻別進路状況 7 頁
7. 役員に関する情報 8 頁
8. 教職員に関する情報 8 頁
9. 学習環境に関する情報 9 頁

II. 事業の概要

1. 中長期的な基本計画10 頁
2. 平成 28 年度 事業計画と達成状況10 頁
3. 各部署の取組み14 頁

III. 平成 28 年度 予算執行状況及び財務状況

1. 資金収支計算20 頁
2. 事業活動収支計算21 頁
3. 貸借対照表22 頁
4. 財務比率23 頁
5. 財産目録24 頁

I. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神

昭和 10 (1935) 年の前身校 (多摩帝国美術学校) の創立にあたって、その設立趣意書において、「美術は自由なる精神の所産たるを想ふとき、我が美術教育界の缺陷は力説に價するものといふべし。我等同士がこゝに我が美術教育界の缺陷を補填し、我が國美術の振興に寄與せんとする微意に出づ」と壮大な決意を謳いあげている。

美術・デザインの領域における専門教育が官立学校に頼る中、それに匹敵する私立学校を設立し、美術・デザイン領域における専門教育の充実を図ろうとの理念の下に本学は設立された。以来、今日に至るまで美術・デザイン領域における専門職業人、独立した作家の育成を理念としている。

2. 沿革

昭和 10(1935)年	多摩帝国美術学校を 5 年制の美術学校(日本画科、西洋画科、図案科、彫刻科)として現在の東京都世田谷区上野毛の地に創設
昭和 12(1937)年	財団法人設立。女子部が創立され、女子の入学が許可
昭和 22(1947)年	専門学校令により、多摩造形芸術専門学校となり、中等教員無試験検定の指定校となる。
昭和 25(1950)年	旧制の多摩造形芸術専門学校に 3 年制の短期大学、多摩美術短期大学(絵画科、彫刻科、造形図案科)を併設
昭和 26(1951)年	学校法人に組織変更
昭和 28(1953)年	学制改革にともない、4 年制の新制大学多摩美術大学を開学(美術学部・絵画科、彫刻科、図案科)
昭和 29(1954)年	川崎市溝の口校地に多摩芸術学園(2 年制 映画科、演技科)を設置
昭和 30(1955)年	多摩美術短期大学を廃止
昭和 39(1964)年	大学院美術研究科修士課程を設置
昭和 44(1969)年	芸術学科、建築科の 2 科増設の認可
昭和 46(1971)年	年次計画により八王子移転を開始。建築科開講
昭和 49(1974)年	美術学部の八王子移転完了
昭和 56(1981)年	芸術学科を開講し、美術学部は 5 科となる。
昭和 57(1982)年	多摩美術大学附属美術参考資料館が、博物館相当施設の指定を受け一般に公開
平成元(1989)年	美術学部二部(絵画学科、デザイン学科、芸術学科)開設
平成 4(1992)年	多摩芸術学園廃止。美術学部臨時定員増
平成 7(1995)年	大学院美術研究科昼夜開講制開始
平成 10(1998)年	美術学部に情報デザイン学科開設、建築科・デザイン科の改組及びデザイン科・芸術学科の定員減により環境デザイン学科、生産デザイン学科、工芸学科を開設。建築科募集停止。美術学部絵画科、彫刻科、デザイン科を絵画学科、彫刻学科、グラフィックデザイン学科に名称を変更。大学院美術研究科芸術学専攻開設

平成 11(1999)年	美術学部二部を改組し、造形表現学部（造形学科、デザイン学科、映像演劇学科）開設。
平成 12(2000)年	附属美術館を多摩センターへ移転
平成 13(2001)年	大学院博士後期課程開設。附属メディアセンター開設
平成 14(2002)年	大学院美術研究科工芸専攻開設
平成 17(2005)年	美術学部絵画学科、グラフィックデザイン学科、環境デザイン学科、芸術学科定員増
平成 18(2006)年	美術学部絵画学科、グラフィックデザイン学科、生産デザイン学科、環境デザイン学科、大学院美術研究科デザイン専攻定員増。附置芸術人類学研究所を設置
平成 19(2007)年	大学院美術研究科デザイン専攻定員増
平成 20(2008)年	美術学部生産デザイン学科定員増
平成 24(2012)年	大学院美術研究科芸術学専攻身体表現研究領域開設
平成 26(2014)年	造形表現学部募集停止 美術学部統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科を開設

3. 設置学校等

(学) 多摩美術大学	理事長	藤谷 宣人
多摩美術大学	学 長	建島 哲
【所在地】		
上野毛キャンパス：東京都世田谷区上野毛 3-15-34		
八王子キャンパス：東京都八王子市鎌水 2-1723		

学部・研究科	学科等	専 攻
大学院 美術研究科	博士後期課程	美術
	博士前期課程	絵画、彫刻、工芸、デザイン、芸術学
大学 美術学部	絵画	日本画
		油画
		版画
	彫刻	
	工芸	
	グラフィックデザイン	
	生産デザイン	プロダクトデザイン
		テキスタイルデザイン
	環境デザイン	
	情報デザイン	
	芸術	
統合デザイン		
演劇舞踊デザイン		

大学 造形表現学部	造形	平成 26 (2014) 年度から募集停止
	デザイン	
	映像演劇	

4. 目的・教育目標

[大学の目的・教育目標]

学則の第一章（総則）第一条に、「広く造形芸術全般について高度な学理技能を教授研究し、あわせて国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育者研究者等を育成する」としている。

また、大学院学則第三条に、「造形芸術全般について高度な学理技能および応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与する」としている。

専門職業人、作家を育成する上で必要となる、「高い専門性と総合性の融合」を掲げている。

[大学院美術研究科博士後期課程（博士）の目的・教育目標]

大学院美術研究科博士後期課程（博士）は、社会の急速な変化や学術研究の著しい進展に伴い、幅広い視野と総合的な判断力を備えた人材を育成することを目的としている。よって領域に応じた専攻を有する修士課程とは異なり、美術専攻 1 専攻のみを設置し、領域に捕われない美術創作研究と美術理論研究の確立を目標としている。

[大学院美術研究科博士前期課程（修士）の目的・教育目標]

大学院美術研究科博士前期課程（修士）は、美術・デザイン領域における高度な知識と技能を備えた人材を育成するため、昭和 39（1964）年に芸術系私立大学ではわが国初めての認可を受けた。絵画、彫刻、デザインの専攻を設置し、平成 10（1998）年に芸術学専攻、平成 14（2002）年には工芸専攻を開設して、1 研究科 5 専攻の編成としている。

クラス制の色合いを濃くし、担当教員によるマンツーマンの指導体制を基本とし、領域の専門性を深めることを目標としている。国際的な視野を具えた人材育成のため、多くの外国人留学生を受け入れ、国際化を図っている。平成 7（1995）年に昼夜開講制を導入した。

[美術学部の目的・教育目標]

国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育研究者等の育成を目的として、教育研究の内容の充実と高度化を図っている。

美術大学の性格上、来るべき社会に対応する専門的な技能の修得と訓練に重きを置いている。しかし芸術の創作は、人間を忘れ学理を離れた、単なる職能人にとどまることによっては達成されないものである。教育理念として懇切な実技指導に加えて、次の 2 つの特徴が挙げられる。

第一に、学理の尊重は創立以来の本学の伝統である。専門教育ならびに教養・総合教育の両者ともに、広い基礎的教養を育成し、学理を中心とした専門教育の推進に努めている。

第二に、人間の主体性の確立と創造性の開発は、美術教育に不可欠の条件として特に重視している。教養・学理・実技にわたる教育は、同時に豊かな心情と自由な創意と批判的な精神に貫か

れた、芸術的個性の形成を目指している。

以上の教育目標実現のため、少人数教育を採っている。カリキュラムは少数の学生を単位に編成され、特にゼミナールを強化して、人間的接触による指導の徹底を期している。また、課題解決型の授業により、自ら思考し、具体化する技能を身に付けることを何よりも重視している。

[造形表現学部（夜間）の目的・教育目標]

美術・デザイン教育を夜間に行うわが国唯一の学部であり、平成元（1989）年に美術学部二部として開設され、その後平成 11（1999）年 4 月に発展的改組転換をして現在に至っている。

美術学部と同じく、専門職業人、独立した作家の育成を目的としている。それに加え、造形表現学部は通学至便の地にある夜間学部の特性を活かし、社会人の再教育・生涯教育の機会を提供することを大きな目的としている。

午後 6 時から（土曜日は午後 2 時から）午後 9 時 10 分までの授業時間で、4 年間で卒業できるカリキュラムを組んでおり、社会人の再教育・生涯教育の推進にあたっている。

なお、平成 25（2013）年 4 月をもって募集を停止した。

5. 入学定員・収容定員・学生数・定員充足率

【大学院】

平成28年5月1日現在

キャンパス	研究科	専攻	研究領域	入学定員	収容定員	学生数	定員充足率
八王子 及び 上野毛	美術研究科 博士前期課程	絵画専攻	日本画 油画 版画	60	120	96	80.0%
		彫刻専攻		12	24	23	95.8%
		工芸専攻		10	20	17	85.0%
		デザイン専攻	グラフィックデザイン プロダクトデザイン テキスタイルデザイン 環境デザイン 情報デザイン コミュニケーションデザイン	45	90	108	120.0%
		芸術学専攻	芸術学 身体表現	10	20	11	55.0%
	小計		137	274	255	93.1%	
	博士後期課程	美術専攻		7	21	15	71.4%
合計				144	295	270	91.5%

【学部】

キャンパス	学部	学科	専攻・コース	入学定員	収容定員	学生数	定員充足率
八王子	美術学部	絵画学科	日本画 油画 版画	195	780	(154) 825 (531) (140)	105.8%
		彫刻学科		30	120	139	115.8%
		工芸学科	陶 ガラス 金属	60	240	263	109.6%
		グラフィックデザイン学科		184	736	763	103.7%
		生産デザイン学科	プロダクトデザイン テキスタイルデザイン	104	416	451 (268) (183)	108.4%
		環境デザイン学科		80	320	344	107.5%
		情報デザイン学科	情報芸術 情報デザイン	122	488	574	117.6%
		芸術学科		40	160	187	116.9%
		統合デザイン学科		120	360	383	106.4%
		演劇舞踊デザイン学科		80	240	249	103.8%
小計				1015	3,860	4,178	108.2%
上野毛	造形表現学部	造形学科			40	25	62.5%
		デザイン学科			100	62	62.0%
		映像演劇学科			60	62	103.3%
		小計			200	149	74.5%
合計				1,015	4,060	4,327	106.6%
合計				1,159	4,355	4,597	105.6%

()内は専攻内数

6. 学部学科・専攻別進路状況

平成29年3月31日現在

大学院	修了者	就職希望者	就職者	進学者	その他
絵画	50 (35)	35 (23)	34 (22)	5 (4)	11 (9)
彫刻	11 (7)	3 (3)	1 (1)	1 (0)	9 (6)
工芸	6 (4)	4 (2)	3 (2)	1 (1)	2 (1)
デザイン	45 (30)	29 (18)	15 (9)	3 (1)	27 (20)
芸術学	7 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (5)
美術(後期課程)	4 (2)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (2)
合計	123 (83)	75 (48)	55 (34)	10 (6)	58 (43)
修了者に対する割合			44.7%	8.1%	47.2%

美術学部	卒業生	就職希望者	就職者	進学者	その他
絵画	202 (159)	109 (86)	91 (75)	43 (32)	68 (52)
日本画	38 (33)	19 (16)	16 (14)	10 (8)	12 (11)
油画	127 (101)	73 (59)	62 (51)	26 (19)	39 (31)
版画	37 (25)	17 (11)	13 (10)	7 (5)	17 (10)
彫刻	34 (22)	20 (12)	17 (11)	6 (4)	11 (7)
工芸	53 (46)	34 (31)	32 (29)	11 (9)	10 (8)
グラフィック	173 (129)	141 (109)	118 (91)	6 (4)	49 (34)
生産	104 (72)	87 (62)	79 (55)	5 (3)	20 (14)
プロダクト	62 (37)	53 (34)	51 (33)	2 (1)	9 (3)
テキスタイル	42 (35)	34 (28)	28 (22)	3 (2)	11 (11)
環境	70 (47)	51 (38)	44 (36)	4 (2)	22 (9)
情報	131 (100)	101 (77)	88 (66)	3 (2)	40 (32)
メディア芸術	65 (50)	46 (35)	40 (30)	2 (2)	23 (18)
情報デザイン	66 (50)	55 (42)	48 (36)	1 (0)	17 (14)
芸術学	42 (30)	23 (17)	22 (17)	6 (4)	14 (9)
合計	809 (605)	566 (432)	491 (380)	84 (60)	234 (165)
卒業生に対する割合			60.7%	10.4%	28.9%

造形表現学部	卒業生	就職希望者	就職者	進学者	その他
造形	24 (16)	15 (10)	10 (6)	1 (1)	13 (9)
日本画	9 (6)	7 (5)	4 (3)	0 (0)	5 (3)
油画	15 (10)	8 (5)	6 (3)	1 (1)	8 (6)
デザイン	61 (36)	51 (30)	32 (22)	2 (2)	27 (12)
ビジュアル	19 (10)	14 (8)	7 (5)	0 (0)	12 (5)
デジタル	21 (12)	19 (11)	15 (9)	1 (1)	5 (2)
プロダクト	9 (5)	7 (3)	2 (2)	1 (1)	6 (2)
スペース	3 (2)	3 (2)	2 (1)	0 (0)	1 (1)
映像デザイン	9 (7)	8 (6)	6 (5)	0 (0)	3 (2)
映像演劇	55 (34)	26 (16)	21 (13)	4 (3)	30 (18)
合計	140 (86)	92 (56)	63 (41)	7 (6)	70 (39)
卒業生に対する割合			45.0%	5.0%	50.0%

()内は女子学生内数

7. 役員に関する情報

平成 28 年 9 月 1 日現在

役員 (11 名)		評議員 (20 名) (五十音順)	
理事 8 名		評議員	安倍 千隆
理事長	藤谷 宣人	評議員	大貫 卓也
理事 (学長)	建畠 哲	評議員	久保田 晃弘
理事	岩倉 信弥	評議員	近藤 秀實
理事	高橋 史郎	評議員	高橋 正
理事	田口 敦子	評議員	建畠 哲
理事	野口 裕史	評議員	田淵 諭
理事	萩原 朔美	評議員	中島 和彦
理事	本江 邦夫	評議員	野口 裕史
		評議員	野澤 敏之
監事 3 名		評議員	萩原 朔美
監事	飛鳥田 一朗	評議員	平出 隆
監事	荒川 直	評議員	深澤 直人
監事	森 三千郎	評議員	藤谷 宣人
【参考】 理事定数 7～9 名 監事定数 2～4 名 評議員定数 19～21 名		評議員	三浦 武彦
		評議員	室越 健美
		評議員	本江 邦夫
		評議員	山下 恒彦
		評議員	渡辺 達正
		評議員	和田 達也

8. 教職員に関する情報

平成 28 年 5 月 1 日現在

教員数 (本務者)		() 内は女性教員内数	
学 長	1 名 (0 名)	大学院助手	3 名 (1 名)
美術学部		造形表現学部	
教 授	97 名 (17 名)	教 授	15 名 (3 名)
准教授	23 名 (9 名)	准教授	3 名 (0 名)
講 師	9 名 (1 名)	講 師	0 名 (0 名)
助 手	38 名 (21 名)	助 手	10 名 (4 名)
合 計	166 名 (48 名)	合 計	28 名 (7 名)
教員数(本務者)合計		194 名 (55 名)	
教員数 (兼務者)		() 内は女性教員内数	
客員教授	62 名 (14 名)	非常勤講師	413 名 (126 名)
教員数(兼務者)合計		475 名 (140 名)	

◆教員の保有学位・実績等：多摩美術大学教員業績公開システム <http://faculty.tamabi.ac.jp/>

職員数	156 名 (70 名)
-----	--------------

9.学習環境に関する情報

上野毛キャンパス 大学院 美術学部 造形表現学部	[所在地] 東京都世田谷区上野毛 3-15-34
	[主な交通手段] 東急大井町線「上野毛駅」下車、徒歩 3 分
	[キャンパスの概要] 主な施設：本館、1号館、2号館、3号館、 講堂、図書館、A棟、B棟、演劇舞踊スタジオ

八王子キャンパス 大学院 美術学部	[所在地] 東京都八王子市鎌水 2-1723
	[主な交通手段] J R 横浜線・京王相模原線「橋本駅」下車、神奈川中央交通バス「多摩美術大学行」8分 J R 「八王子駅」下車、京王バス「多摩美術大学行」20分
	[キャンパスの概要] 主な施設：本部棟、絵画東棟、絵画北棟、彫刻棟群、工芸棟群、デザイン棟、テキスタイル棟、情報デザイン棟・芸術学棟、共通教育センター、図書館、メディアセンター、レクチャーホール、アートテーク、グリーンホール、体育館、T A Uホール、工作センター、第二工作センター、学生クラブ棟
[運動施設の概要] 体育館、グラウンド、テニスコート	

[学外施設] ・大学附属美術館（東京都多摩市） ・富士山麓セミナーハウス（山梨県） ・奈良古美術セミナーハウス（奈良県）

[附置研究所] ・芸術人類学研究所（八王子キャンパス）

Ⅱ. 事業の概要

1. 中長期的な基本計画

大学を取り巻く環境は依然として厳しく「2018年問題」と言われる18歳人口の急激な減少や大学の質的転換を図るため「学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)、「アドミッション・ポリシー」(入学者受け入れの方針)の三つのポリシーを策定し、それらを様々な関係者(多様な入学希望者、学生、保護者、高等学校関係者、地域社会、国際社会、産業界等)が十分理解できる内容に表現して、これらのポリシーと本学の建学の精神である「自由と意力」に基づく大学教育改革を推進し自主的・自律的に展開し永続的な発展を目指す。

平成28(2016)年度の事業計画にあたり、その前提となる中長期的な基本計画は以下のとおりである。

- (1) 教育及び研究体制の整備と再点検
- (2) 学生受け入れ態勢の強化
- (3) 国際的な美術家、デザイナー育成及び国際貢献のための環境整備
- (4) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革
- (5) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備
- (6) 管理運営の強化

2. 平成28(2016)年度 事業計画と達成状況

(1) 教育及び研究体制の整備と再点検

1. 教育課程、教育内容、教育方法改善に向けた取り組み

①教育課程の体系化

カリキュラム、履修案内、シラバス、時間割、出校表等を再点検して教育課程を体系的に整備し授業と学事の円滑な実施に努めた。

②カリキュラム改革への取り組み

平成27年5月から平成28年11月まで検討を続けてきた全学的な教養教育カリキュラム改革について、教養教育カリキュラム設計書を策定し、平成29年度から本格的に実施することとなった。具体的には、共通教育科目のシェイプアップを実施し、必要な新規科目を開設した。

③統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科の設置計画の着実な履行

設置の趣旨、目的に沿った教育研究活動の実施及びカリキュラム、時間割の充実化を図り設置計画の着実な履行に努めた。

④多様化する学生への対応

適切、親密な履修相談等を通じて欠席過多学生や障がいを持つ学生の修学支援へ向けたサポートを推進した。

2. 大学基準協会認証評価(平成27年度申請)結果の対応

大学基準協会による平成27年度大学評価の結果、教育課程の編成・実施方針について、その内容や公表方法についての指摘がなされていたので、理念、目標、学科ごとの教育課

程、授業内容等について項目と内容を見直し、整備した。あわせて、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は学科等ごとに策定し、公表した。

(2) 学生受け入れ態勢の強化

1. 平成 29 年度より導入した推薦入試

変化の度合いを深めつつある社会環境にあつて、文化芸術のさまざまな局面で活躍するバイタリティーに富んだ、多様な人材を育成することを重要なミッションとして掲げてきた。今年度より全学的に導入した推薦入試はその意図をさらに先へと進めるものであり、この入学者選抜にあつては当然ながら一律の能力ではなく、それぞれの分野で望まれる資質、そこで学ぶ積極的な意欲、将来への明確な姿勢などを総合的に問うべきものとなった。故に一般入試とは異なる各研究室独自の入学者選抜方針に基づき、科目などを設定して実施した。結果として募集人員 153 名（日本画は若干名）に対して、414 名の志願者、142 名の入学者を迎えた。更に、この入学者が、充実した入学前の準備期間を過ごしてもらおうべく、学科専攻コースごとに入学前プログラムを設け、計画的に取り組んでもらった。

2. 進学相談会等の取り組み

平成 29 年度入学生的一般入試の志願者数は 5,748 人で昨年度に比べ 493 人減、率にして 7.9%減少であった。これは全学的に実施した推薦入試の影響と考えられるが、大学院入試、外国人留学生入試、帰国生入試、3 年次編入学の各入学者選抜においては前年比 115%となっている。なお、推薦入試を含めた総志願者数は 6,877 人の前年比 49 人減で、約 99.3%となる。

オープンキャンパスの来場者数は前年比約 106%の 8,421 人、進学相談会も同比約 102%の 4,983 人来場となり、重ねて、11 月の芸術祭での進学相談会も多数の相談者があつた。

また、高等学校教員対象の説明会も 100 名を超える参加者があつた。適時適切な密度の濃い情報提供を行った。

3. 学生支援

① 学生生活調査結果を活用した体系的な学生支援の構築を図る

学生支援委員会を中心に調査結果の分析を行ったが、更なる詳細分析は次年度へ継続して行うこととし、併せて体系的な学生支援構築についても持ち越すこととなった。

② 本学学生優先寮の整備

平成 27 年から本学学生の受入れが始まった学生（優先）寮の利用者数が増加した。

【学生優先寮の概要】

建物名	ディアコニア橋本
所在地	相模原市緑区橋本 6-6-10 八王子キャンパスから約 2km（橋本駅まで徒歩約 5 分）
構造等	平成 15 年 3 月竣工、RC 造 6 階建、全 137 室うち 88 室

(3) 国際的な美術家、デザイナー育成及び国際貢献のための環境整備

1. 新たな交換留学実施協定校の拡充及び国際交流に関する学内規程点検と見直し

平成 28 年度には新たに 3 校が加わり、海外協定校は 22 校（平成 29 年 3 月現在）となつ

た。このうち交換留学生として本学から派遣された学生は、ベルリン芸術大学を始めとする10校16名、海外協定校から受入れた学生は13校32名（パシフィック・リムを含む）である。

海外協定校数およびそれに付随した交換留学生受入・派遣人数の増加に対応するため、協定校との交流内容の見直しを進めた。しかし学内規程が交流内容に見合うかどうかについての点検・見直しは半ばとなった。

2. 交換留学制度（派遣・受入）

交換留学生派遣については、協定校のうちベルリン芸術大学（ドイツ）4名、アアルト大学（フィンランド）2名、弘益大学校（韓国）2名、ヘリット・リートフェルト・アカデミー（オランダ）2名、シンシナティ大学（アメリカ）1名、オスロ国立芸術大学（ノルウェー）1名、グラスゴー美術学校（イギリス）1名、チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ（イギリス）1名、国立台北芸術大学（台湾）1名、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（イギリス）1名、合計16名となった。

交換留学生受入についてはアートセンター・カレッジ・オブ・デザイン（アメリカ）10名〔パシフィック・リムでの受入れ〕、アアルト大学（フィンランド）4名、ベルリン芸術大学（ドイツ）4名、シンシナティ大学（アメリカ）2名、国立台湾芸術大学（台湾）2名、弘益大学校（韓国）2名、中央美術学院（中国）2名、国立高等装飾美術学校（フランス）1名、オスロ国立芸術大学（ノルウェー）1名、グラスゴー美術学校（イギリス）1名、ナショナル・インスティテュート・オブ・デザイン（インド）1名、チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ（イギリス）1名、国立台北芸術大学（台湾）1名、合計32名となった。

3. パシフィック・リム（Pacific Rim）

平成28年度パシフィック・リムのテーマは「Future Craft 2 [Thailand]」であり、その名の通り、ロサンゼルス・東京・タイという環太平洋に存在する三大都市に関わるプロジェクトになった。タイ国の多大なるサポートによって、学生・教員・サポーターから構成される総勢50名のメンバーが、2週間におよぶチェンマイ ランプーン地方のフィールドトリップに参加することとなった。美的文化と伝統を体現する工芸に焦点を当て、廃棄されるバナナやパームヤシなどの繊維をどのように再利用するかを考え、アジアが抱える問題をデザイン・芸術の力で解決していくことを目指した。

本学での最終報告会は、日本タイ国大使館より大使に出席いただき、大変有意義なものとなった。学生たちはお世話になった方々への感謝の気持ちを込めて、照明器具や家具などのFuture Craftを作り上げた。

4. 国際貢献（Day-See）プログラム

平成28年度はラオスの文化や生活をより知ることを目的として、新たなプロジェクトを開始した。参加学生は都市部での視察、農村でのインタビューやホームステイから、生産者の生活や文化をより深く知り、ワークショップの開催ではそれらに根付いたデザインや生産技術の提案を目指した。

【視察渡航】平成28年6月4日（土）～6月12日（日）

「ラオスの魅力を引き出す」というテーマから、まず始めにラオスを知ることが目的とし、前年度から交流のあるラオス南部の3つの村を訪ね、村人に文化、生活、生産品について聞き取り調査を行った。合わせてラオスの歴史考察、クラフトショップや市場等で

の各手工芸品について市場調査を行った。

【オープンキャンパス】平成28年7月16日（土）、17日（日）

過去3年間のプロジェクトでの活動を紹介するとともに、6月の視察渡航で調査、インタビューした内容を展示紹介した。

【ワークショップ渡航】平成28年11月19日（土）～11月28日（月）

6月に行ったラオスでの視察調査や日本での調査を元に、プロジェクト参加学生が陶、竹工芸、織物の製品アイデアを提案し、また日本の制作技術を紹介する3つのワークショップを各々の村で企画・実施した。

(4) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革

美術学部は八王子キャンパスに8学科5専攻2コース、上野毛キャンパスに2学科2コースが設置され、それぞれが高い専門性を持った教育研究を進めている一方で、学科別にタテ割りで全学科を貫くもの、いわゆる総合性に欠けることがある。

これを補う視点から本学が目指す専門的職業人や独立した作家の育成に不可欠なプログラムとして、全学科・全学年の学生が履修できる課題解決型のPBL (Project Based Learning) 科目や企業や自治体との産学官共同研究、著名な企業人や作家を招く特別講義など全学科対象のオープン科目を導入し、学生が授業を通じて触発し合うことにより柔軟な考え方や新たな創造を生み出す取り組みを継続的に実施した。

(5) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備

本学の校地及び校舎面積は国が定める大学設置基準を満たしており、上野毛キャンパスと八王子キャンパスにおいて、それぞれの立地の特性を活かした教育研究活動が行なわれている。

特に教育研究領域に対応する専門施設に加え、共同施設（図書館、美術館、メディアセンター、工作工房、アートテーク、セミナーハウス奈良飛鳥寮・山中純林苑等）も充実しており所属学科の領域外のことに触れて学ぶ環境も十分に整備されており、更にこれらの施設設備の充実を目指す。

1. 上野毛キャンパス整備

①統合デザイン学科・演劇舞踊デザイン学科の完成年度に向けた学科設置計画にかかる施設設備の改修工事を実施した。

2. 八王子キャンパス整備

①過去に実施された施設設備の修繕や改修工事履歴に基づく、長期修繕計画をまとめ効果的な施設設備の改修工事を実施した。

②前年度の絵画棟（高層棟）に続き、同（低層棟）の耐震補強工事を実施し学生の教育上の安全を確保した。

③八王子キャンパス隣地取得

事業計画外であったが教育環境保全のため理事会承認の下、南側隣地 11,640.35 m²を取得した。

(6) 管理運営の強化

1. 人事制度の見直し

- ① 新人事システムについては、データの精査・課題の洗い出し・検証を繰り返し実施し、円滑に導入することができた。
- ② 新人事制度に向けて、職員アンケートの実施、他大学の状況をヒアリングするなど情報収集は行ったが、具体的な見直し案の提示には至らなかった。

2. 人材の採用・育成

- ① 職員採用については、方針に基づき選考を実施し人材を確保することができた。
- ② SDの一環として全職員を対象にテーマ別集合研修を実施した。
- ③ 自己申告制度に基づく個別面談を実施した。

3. 法改正及び危機管理対応

- ① ストレスチェックについては、当初予定よりも実施が遅れ、かつ利用率も低かったため、今後利用率の向上に努めたい。
- ② マイナンバー制度については、未収集者はいるものの順調に運用できている。
- ③ 危機管理時の対応については、課題の取りまとめに至っていない。

4. 財政基盤の強化

- ① 管理経費は周年事業費などの特殊要因がなかったこともあり、昨年度比で目標を達成（3%削減）し、教育研究経費はほぼ現状を維持することができた。

5. 創立 80 周年記念奨学基金の募金目標額（1 億円）達成

- ① 目標額には達しなかったが多くの協力をいただいた（85,792,460 円）。

3. 各部署の取組み

1. 教育改革面

(1) 教務部

① 教育課程、教育内容、教育方法等の改善に向けた取組み

- ・ 教職課程について、文部科学省による実地視察が行われ複数の指摘事項があった。今後、ここでの課題や免許法改正に係る再課程申請に向けて全学的に取り組む。
- ・ カリキュラム検討部会ワーキンググループにより共通教育シェイプアップについて検討を重ね、12月に最終報告を行った。「教養総合講座」「アカデミックスキルズ」「美術と生活」など新規科目を設定し、2017年度から新カリキュラムを実施することとなった。
- ・ 高大連携授業を日本画・版画・工芸・グラフィック・芸術の各学科において実施した。参加者によるアンケート調査は例年どおり好評であったが、参加人数が減少したので次年度は内容全体の見直し、工夫を行う予定である。

② 大学基準協会大学評価（2015年度申請）における指摘課題（組織）対応－1

- ・ 理念・目的、教育研究組織に関しては大学全体で取り組む課題であるため、具体的な改善等は未だ行っていない。学内で課題点を共有して、今後複数年掛けて検討をしていくためのプランを立てた。

③ 大学基準協会大学評価（2015年度申請）における指摘課題（教育）対応－2

- ・ 三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の一体的な策定及び公表に向けて取り組みを開始した。まずは、三つのポリシー策定の前提となる理念、目的、目標、学科ごとの教育課程、授業内容等について項

目と内容を整備した。あわせて、ディプロマ・ポリシーは学科等ごとに策定し、大学基準協会からの指摘課題であった、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）の内容は、教育内容・方法に関する考え方を示すよう改善した。

④教務部コンピュータシステム整備

・新システム導入に向け、現システムから導入する仕様や改修する仕様をまとめるなど、テスト導入に向けデータ移行等の対応を行っているが、業者の作業が遅れて計画どおりの行程で進んでいない状況である。スケジュール管理を適切に行い、引き続き対応していく。

⑤国際交流の推進・制度化

・新たに、国立高等装飾美術学校（フランス・通称 ENSAD）、チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ（イギリス・通称チェルシー）、ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン（アメリカ・通称 RISD）との大学間交流協定を締結した。

・日本学生支援機構（JASSO）の平成 29 年度海外留学支援制度（協定派遣）申請が採択された。

・「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～」に本学学生 3 名が採択された。

⑥地域連携に関する取り組み

・学校法人昭和大学と 10 月に包括連携協定を締結し、教育・研究・診療・芸術の分野における充実と発展を目指し、医療教育、芸術教育の支援、質向上に関することなど、様々な連携を行っていくこととなった。

・八王子キャンパスに近接する神奈川県相模原市は多くの学生が在住し、これまでに同市及び同市に拠点を置く企業と産学協働プロジェクトに取り組んできた。更なる連携の充実・強化を図るため連携の基盤となる包括連携協定書を締結することが効果的であると双方合意して 11 月の包括連携協定の締結となった。

(2) 入学センター

①全学科による推薦入試を各研究室の方針により選考科目を設定し実施した。

②WEB 出願に向けた検証を行い、業者を選定した。

③入学者選抜については、推薦入試、一般入試、大学院入試では概ねミスなく運営できたが、特別入試に関して課題が生じたため、来年度に向けた体制を再構築した。

④事前告知として様々な媒体を活用したり、直接高校生と接触する機会を増やすことによりオープンキャンパス、芸術祭に多くの来場者を集めることができた。また、地方の私立大の公立化に見られるように、地元志向の気運が高まっているため、地方へのアプローチの強化が必須となり、様々な手段を講じた。それにより、今まで志願者がいなかった高校からも受験するようになった。

⑤公的機関との連携強化として、各団体の協賛だけでなく、学内での各団体の高校教員研究会などの実施や本学教員を招聘することで、繋がりを深めることができた。

(3) 研究支援部

①研究費に関するルールの改定および教員向けの説明会を適宜実施した。

- ②公的研究費のモニタリング計画を策定し、不正防止に向けた取り組みを実施した。
- ③科学研究費研究成果の社会還元・普及事業ひらめき☆ときめきサイエンスを2件、産学共同研究プロジェクトを30件実施した。
- ④第31号研究紀要を発行した。
- ⑤アートテークにて展示を23件実施した。

(4) 学生部

- ①学生支援の見直し（方針策定、体系的支援基盤構築、奨学金制度等）
 - ・80周年記念奨学金を次年度実施できるよう整備を行った。
 - ・学生支援に関する施策の適切性を検証するための方策について、2016年度では行えず、次年度への継続検討となった。
- ②学生満足度の向上（意見箱、学生生活調査、学生モニター等）
 - ・2015年度意見箱の取りまとめを行った。
 - ・2016年学生生活調査の分析、課題を取りまとめ、学生支援委員会にて報告を行った。
 - ・学生モニター制を実施し、できるものは対応した。
- ③課外活動支援（クラブ団体、芸術祭、上野毛キャンパス学生）
 - ・各クラブ団体とのコミュニケーションは、会議、面接、リーダーズキャンプを通じて実施できた。
 - ・芸術祭についても学生の主体性を重んじながら実施できた。
 - ・上野毛キャンパス学生が、課外活動（クラブ、芸術祭）を共に行えるよう協議し、交流会などを実施した。
- ④多様化する学生支援（欠席過多学生、障がいを持つ学生）
 - ・欠席過多等要ケア学生への研究室連携等による早期発見と支援を行った。
 - ・退学者の状況分析検討及び欠席過多学生の効果測定を行ったが、いずれも次年度へ継続検討とした。
 - ・障がいをもつ学生の関係者との情報共有と適切な対応について概ね実施できた。
- ⑤進路・就職支援対策を強化し、前年度を上回る就職内定率となった。
- ⑥昨年度とほぼ同内容のガイダンスを行い、就職活動時期への変更に対応した。
- ⑦学生支援委員会、就職担当教員を通じて情報提供は行っており、上野毛キャンパスの2学科とも連携が強化された。
- ⑧上野毛キャンパスの人員配置を強化し、ガイダンス等も八王子キャンパスと同内容で開催することができた。また、企業の説明会に関してはTV会議システムを導入し、上野毛キャンパスの学生も参加できるようにした。
- ⑨悩める学生への進路・就職相談等支援強化として、学生課、相談室とのケース会議を通じて、情報共有することができた。

(5) 図書館

- ①閲覧室の利用環境を改善、円卓企画を14件実施し学生の視野拡大に寄与するなど利用者満足度は順調に向上している。
- ②蔵書・資料の整備充実を堅実に実施した。

③運営・管理面では過去からの懸案事項の解決、今後の発展・効率化が期待できるシステムの変更など大きな成果を得た。

(6) 美術館

- ①展覧会：収蔵コレクション展等年間6本
- ②博物館実習：受入れ29名、57日間
- ③アウトリーチ活動：見学92名、美術鑑賞教室50名

(7) メディアセンター

- ①研究センター：研究成果アーカイブの作製支援等を行った。
- ②情報センター：ネットワーク機器の老朽化への対応を行った。
- ③映像センター：作業効率向上のため関連施設のメンテナンスを実施した。
- ④写真センター：スタジオ施設・写真機材の授業への提供など有効に活用された。
- ⑤工作センター：安全衛生診断に基づく安全第一の運営を行った。
- ⑥CMTEL：学生の制作活動に対する実践的サポートを実施した。
- ⑦上野毛スタジオ：造形表現学部保有機材の移管を行った。

(8) 生涯学習センター

- ①八王子キャンパスでの事業展開の計画策定・検討・実施
 - ・専用教室が設置され、八王子キャンパスでの開講数が拡大した。
 - ・一般市民に向け「タマビへようこそー“美大生”になろう」のキャッチフレーズで、多摩地区を中心に広報展開を行った。
- ②Web 利用による活動内容の周知広報、申し込み手続き等の環境整備
 - ・大学外の Web 媒体への情報提供を積極的に行った。
- ③自治体や団体等の連携活動強化
 - ・上野毛キャンパス周辺での連携講座は、世田谷区共催「世紀を歩く」（4,881名の応募あり/5年目）をはじめ、好評を博している。
 - ・こども講座「あそびじゅつ」では、「福島震災後支援プロジェクト」（3年目）、世田谷区主催「才能の芽を育てる体験学習」（9年目）等、各種連携事業も支持されている。
 - ・教員が学外でワークショップを行う際の協力業務に力を入れた。

(9) 芸術人類学研究所

- ①研究プロジェクトと連動した大学内外における連携活動の推進と教育活動
 - 第4回「土地と力」シンポジウム—聖なる場所のネットワーク、公開研究会「インド調査報告会」IAA フィルムセレクションなどを通じて、研究成果を報告した。「土地と力」シンポジウムでは日本、インドからアイルランドまで、先史・古代から現代に通底する「土地に根ざす聖なるもの」への人類の祈りと想像力を多角的に解明する成果を得た。
- ②研究会・プロジェクトの計画
 - 「土地と力」プロジェクト、ならびに研究5部門（ユーロ＝アジアをつらぬく美の文明史、野外をゆく詩学、贈与と祝祭の哲学、来たるべき美術、繚れのデザイン）を相互に連

携わせるプロジェクト運営を核とした、研究会やシンポジウムを開催した。従来では人類学の一角に限定されてきた芸術の歴史・思想を踏まえた創造性を「人類史の現在」に開いていく研究を一層進め、それらの成果は研究所紀要『Art Anthropology』第12号にまとめ学内外に発信した。

(10) 造形表現学部事務部

- ①4年生全員の出席状況をチェックし、研究室と連携を取りながら、欠席が多い学生を呼び出して指導するなど、卒業に向けた支援体制ができた。
- ②昼間部と夜間部が混在する中、カウンセラーと職員を中心に、速やかな対応と情報共有を進めることができた。
- ③最終イベントは夏、秋、冬、春の4回実施した。春のクロージングイベントは、3学科合同で最後の卒業生と共に700名以上が参加し、教職員一丸となって行った。
- ④造形表現学部は2名を残して、卒業生を確定した。業務移管先との引継ぎは、今後の課題として取り組んでいく。

2. 管理運営面

(1) 総合企画室

- ①高校・予備校・業者等から高等教育に関する情報は収集したが、具体的に長期計画を含む提案には至らなかった。
- ②志願者・入学者データから、高校別・学科別の動向を洗い出し、油画専攻教員と高校ガイダンスを実施するなどしたが、全学的な対応には至らなかった。
- ③情報収集校を選定し、推薦入試に関する情報提供ならびに情報収集を目的に高校訪問を実施した。
- ④今年度は前年度からの制作方針を継承し広報誌の制作にあたったが、次年度刷新に向け「大学案内」「TAMABI NEWS」「トナトリエ」の位置付けを再検討し、制作目的の見直しを行った。
- ⑤コンテンツ・ブランディング強化を目的に、ホームページのマイナーチェンジを実施した。検索機能を強化するなど利用者の操作性向上に努めた。
- ⑥テレビ取材への協力や大学プレスセンターからの配信などプレスリリースを強化、パブリシティの獲得を目指したが十分な成果ではなかった。

(2) 総務部

1. 施設整備計画

①上野毛キャンパス施設・設備の整備

統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科体制へ向けた施設改修については、関係者との連携を密に行い、円滑に遂行・完了することができた。

②八王子キャンパス施設・設備の整備

グリーンホール食堂管理室・売店空調機更新、GHP空調更新工事（メディアセンターB1F・1F）、PBX電話交換機更新工事、絵画棟（低層棟）耐震改修補助対象工事、学生クラブ棟屋上防水・外装改修工事を実施した。

2. 管理運営計画

① 人事制度の見直し

新人事システムについては、データの精査・課題の洗い出し・検証を繰り返し、円滑に導入することができたが、人事制度については、職員アンケートの実施、他大学の状況をヒアリングするなど情報収集は行ったものの見直し提案には至らなかった。

② 人材の採用・育成

職員採用については、方針に基づき選考を実施し人材を確保できた。また、SDの一環として全職員を対象にテーマ別集合研修を実施した。

③ 法改正および危機管理への対応

マイナンバー制度については、未収集者はいるものの順調に運用できているが、ストレスチェックについては、予定よりも実施が遅れ利用率も低かった。また、危機管理時の対応については、課題の取りまとめに至っていない。

④ 山中純林苑、奈良飛鳥寮セミナーハウスの管理・運営

施設概要、利用ルール等について周知されており、管理人及び管理業者とも定期的に打合せを行い、適宜課題の把握・改善に努めている。

⑤ 各建物の長期修繕計画作成

各建物の竣工後経過年数別の修繕計画を一部取りまとめた。

⑥ 備品管理データの更新

未入力だった備品データ（2012年度、2013年度）の処理を実施し、2016年度については、支払い済みのものから処理を行った。

⑦ 災害備蓄品の更新

災害備蓄品の在庫確認、データ更新を行い、消費期限切れ備蓄品の入替えを実施した。

⑧ 鍵水町会との協定書締結

災害時における緊急避難場所および避難所として八王子キャンパスの一部施設を利用することの協定書を締結した。

(3) 経理部

① 資産運用基準変更及びポートフォリオの検討

格付等の運用基準の見直しを行い、マイナス金利に対応できるよう可能なリスクを再検討し実際に運用できる体制を整えた。

② 財務基盤強化（教育研究経費支出の現状維持と管理経費支出の▲3%削減）

効率的な予算執行と無駄を省く経費削減を進めた他、債券購入を増やしたり、寄付を積極的に受け入れる等、継続的に安定した教育資金の確保に努めた。

③ 未整備のマニュアル作成

学費関係、日常業務のマニュアル等を作成した。

Ⅲ. 平成28年度 予算執行状況および財務状況

当期の予算執行および財務状況について、概要を報告します。

(会計についての詳細はホームページの「多摩美術大学について」→「会計・事業報告」をご参照ください)

1. 資金収支計算

資金収支計算について、その主な内容を報告します。

なお、金額は千円未満を四捨五入して表示しています。

【資金収支計算総括表】

(収入の部)		(単位:千円)		
科 目	予 算	決 算	差 異	
学生生徒等納付金収入	7,423,780	7,527,278	△103,498	
手数料収入	169,850	181,509	△11,659	
寄付金収入	61,850	67,393	△5,543	
補助金収入	645,600	657,813	△12,213	
資産売却収入	200,000	200,000	0	
付随事業・収益事業収入	34,700	52,360	△17,660	
受取利息・配当金収入	46,900	66,067	△19,167	
雑収入	272,400	287,530	△15,130	
借入金等収入	0	0	0	
前受金収入	3,192,400	3,935,108	△742,708	
その他の収入	1,707,839	1,882,248	△174,409	
資金収入調整勘定	△3,890,913	△3,959,888	68,975	
当年度資金収入合計(A)	9,864,406	10,897,418	△1,033,012	
前年度繰越支払資金	12,453,975	12,453,975	0	
収入の部合計	22,318,381	23,351,393	△1,033,012	

(支出の部)				
科 目	予 算	決 算	差 異	
人件費支出	4,246,600	4,226,771	19,829	
教育研究経費支出	1,997,158	1,880,021	117,137	
管理経費支出	353,700	307,940	45,760	
借入金等利息支出	4,253	4,142	111	
借入金等返済支出	110,270	110,270	0	
施設関係支出	1,797,500	1,662,951	134,549	
設備関係支出	459,500	354,801	104,699	
資産運用支出	1,450,000	1,450,000	0	
その他の支出	307,404	307,345	59	
予備費	326,000	—	326,000	
資金支出調整勘定	△310,958	△324,695	13,737	
当年度資金支出合計(B)	10,741,427	9,979,546	761,881	
翌年度繰越支払資金	11,576,954	13,371,847	△1,794,893	
支出の部合計	22,318,381	23,351,393	△1,033,012	

当年度資金収支差額(A)-(B)	△877,021	917,872	△1,794,893
------------------	----------	---------	------------

新学科開設(統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科)により予算額を上回りました。

多摩美術大学創立80周年記念奨学基金の募金活動を昨年度に引き続き実施しました。

私立大学経常費補助金6億133万円、うち特別補助7,662万円(成長力強化に貢献する質の高い教育27万円、社会人の組織的受入1,457万円、国際交流の基盤整備1,441万円、大学院等の機能高度化1,252万円、授業料減免及び経済的支援3,191万円、熊本地震復興支援295万円)の交付がありました。特別補助は増加しましたが一般補助額は学校配点が下がり減少しました。

政府保証債1億円、財投機関債1億円の有価証券満期償還額です。

受託研究収入や、生涯学習講座による公開講座収入が増加し、文化庁等の受託事業収入があり、予算額を上回りました。

長期金利は低水準が継続していますが、銀行の定期預金、債券の新規購入による資産運用額の増加により予算額を上回りました。

退職金および教員人件費は予算額を上回りましたが、事務職員の業務改善取組み効果等により職員人件費が抑えられ予算額を下回りました。

消耗品費、学生管理費、新聞雑誌費、業務委託費等や、学生クラブ棟外壁補修等で営繕費が増加しました。各種奨学金や学費減免の継続実施、家計急変緊急奨学金等の学生支援の充実による増加もありましたが、光熱水費や旅費交通費、印刷費等の減少もあり予算額を下回りました。

八王子キャンパス…南側に隣接した土地の購入、絵画棟棟低層部分耐震補強工事および間仕切り壁新設工事、食堂改修工事、GHP更新(本部棟、メディアセンター)、デザイン棟ホワイトボード改修、木彫材料置き場コンクリート舗装工事、上野毛キャンパス…各所改築・改修工事の実施。

減価償却引当特定資産を5億円増額(合計63億円)しました。退職給与引当特定資産を5億円増額(合計20億円)しました。創立80周年奨学基金引当特定資産を増額(合計1億円)しました。

上記により次年度繰越支払資金が予算対比、前年度決算額対比で増加しました。

2. 事業活動収支計算

事業活動収支計算について、その主な内容を報告します。

【事業活動収支計算総括表】

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	7,423,780	7,527,278	△103,498
手数料	169,850	181,509	△11,659
寄付金	61,850	67,393	△5,543
経常費等補助金	600,600	601,754	△1,154
付随事業収入	34,700	52,360	△17,660
雑収入	272,400	287,530	△15,130
教育活動収入計	8,563,180	8,717,824	△154,644
人件費	4,209,150	4,189,334	19,816
教育研究経費	3,421,158	3,271,359	149,799
(うち減価償却額)	1,424,000	1,391,338	32,662
管理経費	435,700	389,853	45,847
(うち減価償却額)	82,000	81,913	87
徴収不能額	0	0	0
教育活動支出計	8,066,008	7,850,546	215,462
教育活動収支差額	497,172	867,278	△370,106
科目	予算	決算	差異
受取利息・配当金	46,900	66,066	△19,166
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	46,900	66,066	△19,166
借入金等利息	4,253	4,142	111
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	4,253	4,142	111
教育活動外収支差額	42,647	61,924	△19,277
経常収支差額	539,819	929,202	△389,383
科目	予算	決算	差異
資産売却差額	130	136	△6
その他の特別収入	46,000	59,362	△13,362
特別収入計	46,130	59,498	△13,368
資産処分差額	131,300	79,288	52,012
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	131,300	79,288	52,012
特別収支差額	△85,170	△19,790	△65,380
予備費	354,300		354,300
基本金組入前当年度収支差額比率(注1)	1.2%	10.3%	
基本金組入前当年度収支差額	100,349	909,412	△809,063
基本金組入額合計	△111,400	△79,647	△31,753
当年度収支差額	△11,051	829,765	△840,816
前年度繰越収支差額	△5,452,401	△5,452,401	0
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△5,463,452	△4,622,636	△840,816
事業活動収入計	8,656,210	8,843,388	△187,178
事業活動支出計	8,555,861	7,933,976	621,885

退職金財団からの交付金、科学研究費補助金間接経費等により予算を上回りました。

光熱水費、旅費交通費、奨学費、印刷費、構築費、警備費等が減少し、予算を下回りました。

昨年度の周年事業に係る支出がなくなったことにより、消耗品費、印刷費、雑費等が大幅に減少し、管理経費の全体額も縮小しました。

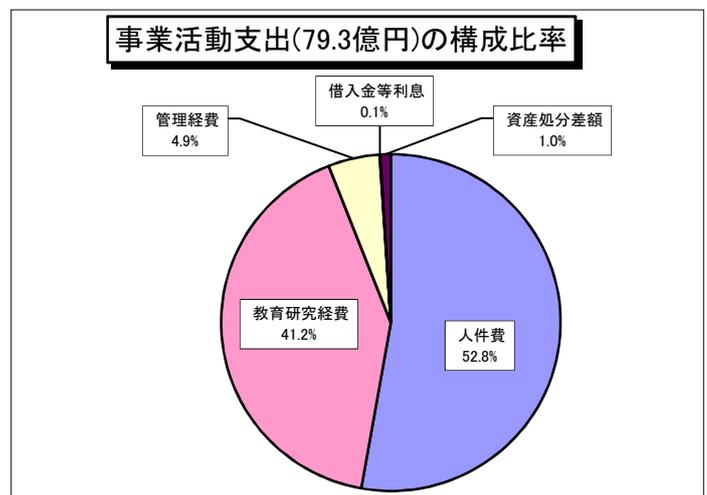
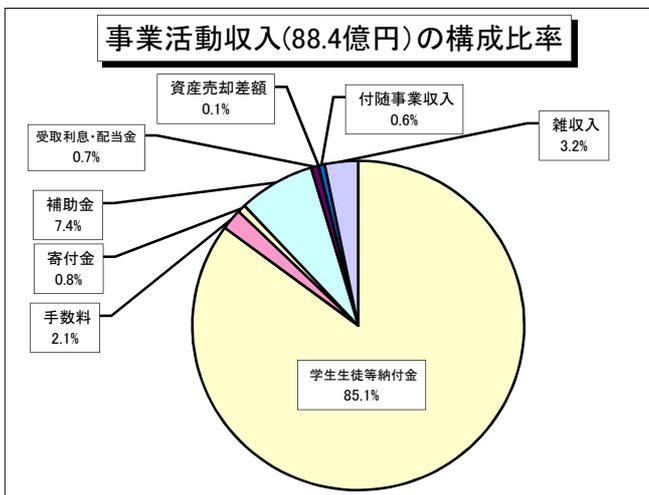
政府保証債、財投機関債を額面以下の価格で購入し運用していた債券が満期償還され購入額との差額がありました。

施設設備補助金5,606万円のほか現物寄付として科学研究費から購入されたPC5台等、330万円相当額の寄贈がありました。

視聴覚資料の除却 3,183万円、汚損・紛失・除籍および図書データ整理による図書処分差額が4,621万円等が発生しました。

上記の結果、事業活動収入は1億8,717万円予算を上回り、基本金組入前当年度収支差額比率は10.3%になりました。これは次年度以降も継続される施設整備計画の資金に充当されます。当年度の収支差額は8億2,976万円となり翌年度繰越収支差額は△46億2,263万円と改善しました。この繰越収支差額は、将来計画にかかる基本金の先行組入れ(70億円)や借入金に頼らない施設設備充実の結果生じた基本金組入れによるもので、中期的には解消し今後も事業活動収支の均衡が図られる運営を目指しています。

注1 基本金組入前当年度収支差額比率=基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入計×100



3. 貸借対照表

貸借対照表について前年度からの増減と5カ年推移を報告します
(資産の部) (単位:千円)

科目		H28年度末	H27年度末	増減
資産	固定資産	55,090,052	54,871,486	218,566
	有形固定資産	36,826,709	36,362,223	464,486
	特定資産	15,761,704	16,111,704	△350,000
	その他の固定資産	2,501,639	2,397,559	104,080
	流動資産	13,749,582	12,822,424	927,158
合計		68,839,634	67,693,910	1,145,724

土地=美術学部 八王子キャンパス南側隣接土地 11,640.35㎡
 建物=美術学部 絵画棟耐震補強工事、メディアセンターGHP更新他
 構築物=美術学部 木彫材料置き場コンクリート舗装
 教育研究用機器備品
 美術学部=無製版プリントシステム、3Dプリンター、LEDムービングライト、プロジェクター、PC iMac他
 美術参考品=若林砂絵子作品27点 岡村吉右衛門作品61点他

(負債の部・純資産の部)

科目		H28年度末	H27年度末	増減
負債	固定負債	2,092,923	2,185,080	△92,157
	流動負債	4,526,094	4,197,626	328,468
	合計	6,619,017	6,382,706	236,311
純資産	基本金	66,843,253	66,763,605	79,648
	第1号基本金	59,001,549	57,521,901	1,479,648
	第2号基本金	7,019,624	8,419,624	△1,400,000
	第3号基本金	342,080	342,080	0
	第4号基本金	480,000	480,000	0
	繰越収支差額	△4,622,636	△5,452,401	829,765
合計		62,220,617	61,311,204	909,413
負債および純資産の部合計		68,839,634	67,693,910	1,145,724

有価証券は銀行劣後債券の購入により4億円増加し、政府保証債・財投機関債等の償還2億円、80周年記念奨学基金引当特定資産の振替1億円により3億円減少、第3号基本金引当て分3.4億円を含む保有の有価証券残高33.3億円(H29/3月末現在の取得価額に対する評価はプラス2億1,036万円)。第2号基本金引当特定資産残高は八王子キャンパス新規土地取得により14億円取り崩し、70億1,962万円。現有固定資産更新のための資金「減価償却引当特定資産」残高は5億円増額し63億円。「退職給与引当特定資産」残高は5億円増額し20億円。多摩美術大学創立80周年記念奨学基金引当特定資産残高は5,000万円増額し1億円。

現金預金残高は前年比9億1,787万円増加し133億7,185万円、退職金財団交付金等の未収入金が2,183万円増加し3億2,410万円、前払金は1,560万円減少し5,053万円。

長期借入金残高は返済により減少し5,472万円、退職給与引当金残高は305名分で20億3,820万円となり人数・金額ともに減少。

(参考)

減価償却額の累計額	22,202,910	21,215,898	987,012
基本金未組入額	34,373	58,493	△24,120

貸借対照表についてH26年度～H24年度を報告します。

(資産の部) (単位:千円)

科目		H26年度末	H25年度末	H24年度末
資産	固定資産	53,860,387	53,162,312	53,914,959
	有形固定資産	35,901,176	35,289,438	36,078,857
	特定資産	15,061,705	14,475,952	13,641,080
	その他の固定資産	2,897,506	3,396,922	4,195,022
	流動資産	12,736,977	12,471,546	11,079,503
合計		66,597,364	65,633,858	64,994,462

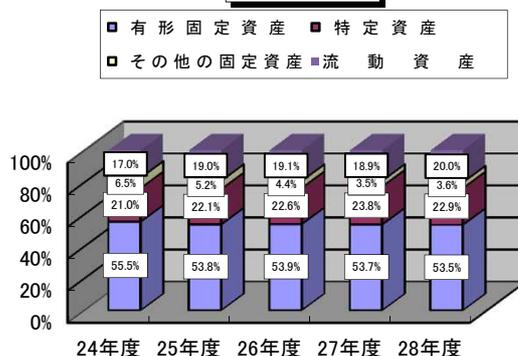
(負債の部・純資産の部)

科目		H26年度末	H25年度末	H24年度末
負債	固定負債	2,285,480	2,352,456	2,516,199
	流動負債	4,156,673	4,090,249	4,182,801
	計	6,442,153	6,442,705	6,699,000
純資産	基本金	65,178,769	64,354,577	64,354,577
	第1号基本金	55,937,065	54,698,625	54,533,497
	第2号基本金	8,419,624	8,834,872	9,000,000
	第3号基本金	342,080	341,080	341,080
	第4号基本金	480,000	480,000	480,000
	繰越収支差額	△5,023,558	△5,163,424	△6,059,115
合計		60,155,211	59,191,153	58,295,462
負債および純資産の部合計		66,597,364	65,633,858	64,994,462

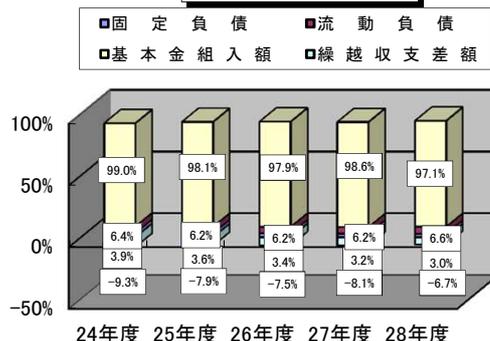
(参考)

減価償却額の累計額	20,038,122	19,149,070	18,166,063
基本金未組入額	4,506	0	0

資産構成比率



負債、純資産構成比率



4. 財務比率<平成24年度から平成28年度>

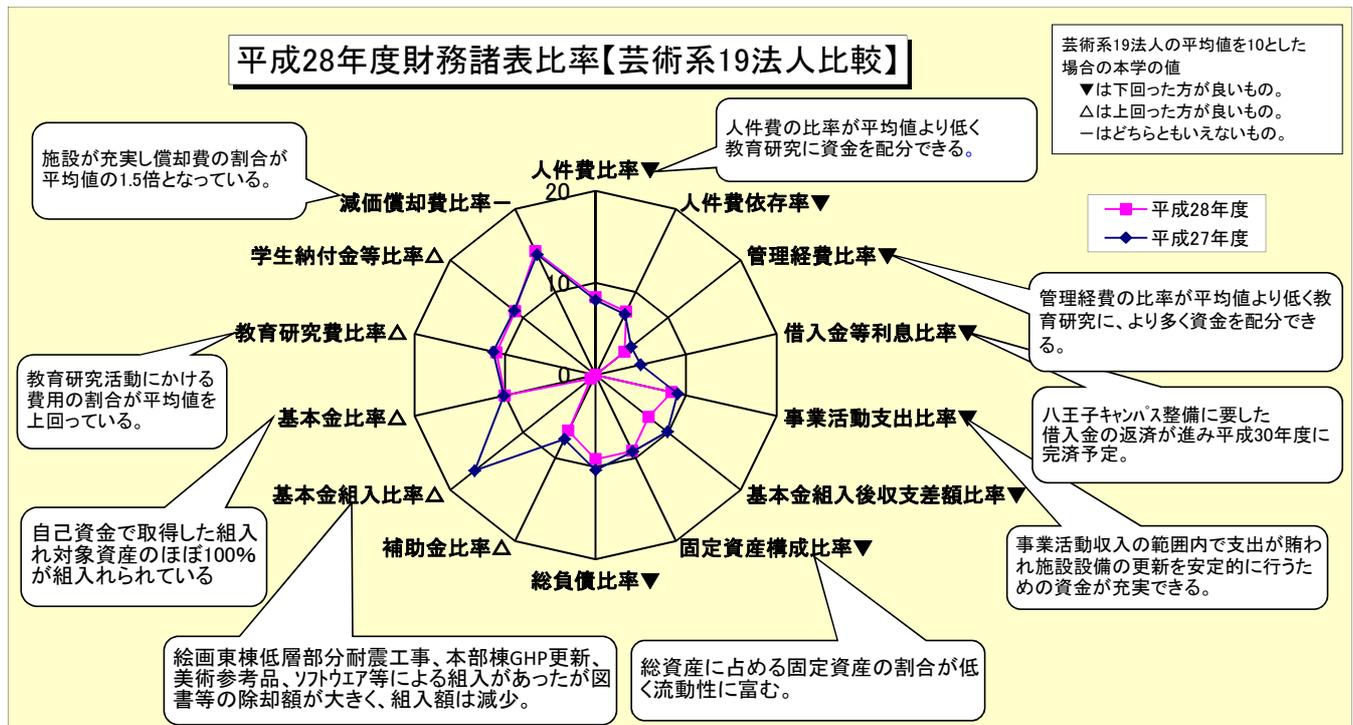
※芸術系(19法人)平均値は、日本私立学校振興・共済事業団編【今日の私学財政】平成28年度版より算出しました。

項目	算式	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	芸術系平均値
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	44.5%	47.3%	46.7%	45.6%	47.7%	56.5%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生納付金}}$	▼	51.6%	56.1%	53.9%	53.3%	55.7%	73.0%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	4.6%	5.8%	4.6%	5.1%	4.4%	11.0%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	▼	0.4%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%
事業活動支出比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}}$	▼	87.9%	89.3%	88.4%	86.6%	89.7%	106.4%
基本金組入後収支差額比率	$\frac{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}{\text{事業活動支出}}$	▼	87.9%	89.3%	98.1%	106.1%	90.5%	123.7%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	83.0%	81.0%	80.9%	81.1%	80.0%	87.5%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	10.3%	9.8%	9.7%	9.4%	9.6%	10.5%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	△	7.5%	7.6%	7.3%	7.8%	7.4%	11.0%
基本金組入比率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	△	0.0%	0.0%	9.9%	18.3%	0.9%	14.0%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.9%	97.4%
教育研究費経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	37.9%	36.1%	36.8%	36.5%	37.2%	34.0%
学生納付金等比率	$\frac{\text{学生納付金}}{\text{経常収入}}$	△	86.3%	84.3%	86.7%	86.2%	85.7%	77.4%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	—	22.1%	19.3%	18.6%	18.9%	18.8%	12.6%

*「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計「経常支出」=教育活動支出計+教育活動外支出計「運用資産」=現金預金+特定資産+有価証券
*平成26年度以前の大学平均・芸術平均については、旧会計基準(消費収支計算書)のデータであるため新会計基準(事業活動資金収支計算書)に調整をして算出している。

【比率分析の見方】

- 人件費比率=経常収入に対する人件費割合を示す重要な比率で低い方が望ましい。
- 人件費依存率=学生納付金に対する人件費割合で一般的には低い方が望ましい。
- 管理経費比率=経常収入に対する管理費用の割合で低い方が良い。本学では特に節減に力を入れている。
- 借入金等利息比率=低い方が良い。本学は八王子キャンパス整備の借入金により比率が高かったが返済が進み平均値を下回った。
- 事業活動支出比率=人件費や教育研究・管理経費などで消費された比率で低いほど安定し自己資金は充実する。
- 基本金組入後収支差額比率=「事業活動収入-基本金組入額」に対する事業活動支出の割合で低い方が良い。100%を超えると支出超過。
- 固定資産構成比率=総資産に占める固定資産の割合で低い方が良い。比率が特に高い場合は流動性に欠ける評価。
- 総負債比率=低い方が良い。総資産に対する他人資金の割合、50%を超えると負債総額が自己資金を上回る。
- 補助金比率=研究設備整備費等補助金等の獲得に取り組んだが、私立大学等経常費補助金の減少により前年度比0.4%減となった。
- 基本金組入比率=高い方が良いとされる。平成28年度は新築建物はなく、土地取得は第2号基本金からの振替の為、組入比率は減少。
- 基本金比率=基本金組入対象(教育研究用)資産の自己資金取得による割合で高い方が良い。
- 教育研究費経費比率=経常収入に対する教育研究活動費用の割合で高い方が良い。
- 学生納付金等比率=経常収入の中で最もウェイトが高く安定推移が良い。学費のみに依存しない体制作りが重要。
- 減価償却額比率=将来、資産の更新時に必要である。実質的には消費されずに留保される資金。



【まとめ】

平成28年度末における本学の財政状況は、学費収入が安定しており、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金も平成30年度には完済となる等、しっかりとした経営基盤を維持しています。この良好な状態は各財務比率でも示されています。本学は継続的な人件費支出の圧縮や管理経費支出の節減等により、新規の施設設備整備計画に当てるための資金ストックや毎年度の収支差額に不足はなく、今後も安定的な教育運営資金が十分確保されています。

財 産 目 録

平成29年 3月31日

I 資産総額		68,839,634,085 円	
内 基本財産		36,833,011,834 円	
運用財産		32,006,622,251 円	
II 負債総額		6,619,016,964 円	
III 正味財産		62,220,617,121 円	

科 目		金 額	
資 産			
一 基本財産		(36,833,011,834 円)	
1 土地(団地)		198,947.99 m ²	14,275,478,964 円
内 訳	(1)上野毛キャンパス校地	16,118.66 m ²	10,600,000 円
	(2)八王子キャンパス校地	164,540.73 m ²	13,258,386,964 円
	(3)美術館敷地(校地)	1,603.00 m ²	920,000,000 円
	(4)山中純林苑敷地	11,929.00 m ²	80,620,000 円
	(5)奈良飛鳥寮敷地	1,469.60 m ²	5,172,000 円
	(6)野尻湖敷地	3,287.00 m ²	700,000 円
2 建 物		110,808.97 m ²	16,118,489,747 円
内 訳	(1)校 舎	96,309.83 m ²	13,075,790,514 円
	(2)図 書 館	6,738.99 m ²	1,501,579,619 円
	(3)講堂・体育館	3,895.29 m ²	457,024,607 円
	(4)学生会館	2,073.99 m ²	324,406,390 円
	(5)そ の 他	1,790.87 m ²	759,688,617 円
3 構 築 物		347 件	2,550,878,012 円
4 教育研究用機器備品		13,350 点	1,148,229,267 円
5 管理用機器備品		471 点	30,345,152 円
6 図 書		199,886 冊	1,348,154,484 円
7 美術参考品		5,594 点	1,301,783,490 円
8 美術参考資料		287 種	52,113,359 円
9 車 両		9 台	1,236,873 円
10 ソフトウェア		1 本	4,029,264 円
11 電話加入権		38 台	2,273,222 円

※土地および建物の面積は、登記上の数値による。

科 目		金 額
二 運 用 財 産		(32,006,622,251 円)
1 現 金、預 金		13,371,848,051 円
2 第2号基本金引当特定資産		7,019,624,477 円
3 第3号基本金引当特定資産		342,079,839 円
4 減価償却引当特定資産		6,300,000,000 円
5 退職給与引当特定資産		2,000,000,000 円
6 多摩美術大学創立80周年記念奨学基金引当特定資産		100,000,000 円
7 有 価 証 券		2,493,718,000 円
内 訳	(1)利付国債	994,296,000 円
	(2)政府保証債	199,694,000 円
	(3)財投機関債	799,728,000 円
	(4)銀行債	500,000,000 円
8 差入保証金		1,256,200 円
9 長期貸付金		361,665 円
10 未 収 入 金		324,100,524 円
11 前 払 金		50,530,047 円
12 立 替 金		3,103,448 円
資 産 総 額		68,839,634,085 円
負 債		
一 固 定 負 債		(2,092,923,307 円)
1 長期借入金		54,720,000 円
内訳	日本私立学校振興・共済事業団	54,720,000 円
2 退職給与引当金		2,038,203,307 円
二 流 動 負 債		(4,526,093,657 円)
1 短期借入金		54,720,000 円
2 未 払 金		259,808,555 円
3 前 受 金		3,935,134,852 円
4 預 り 金		276,430,250 円
負 債 総 額		6,619,016,964 円
正味財産(資産総額－負債総額)		62,220,617,121 円